▲温かい笑顔あふれる運営委員の皆さん

子どもたちの笑顔が見たいから

ほんごう子ども図書館はＪＲ本郷駅前にあります。ログハウスの館内はすべてバリアフリーです。設計段階からかかわり、木のぬくもりが伝わる居心地のいい空間になるよう、心を配りました。当時は地域に図書館がなかったことから、旧本郷町出身で、三原市の名誉市民でもある、東京大学名誉教授の大田堯先生の協力により、平成13年にオープンしました。図書館の建設は行政で、運営はボランティアという公設民営方式です。大畠敏彦館長、吉田達也前館長らからなる運営委員と、約30人のボランティアによって活動は支えられています。

赤ちゃん連れのお母さん同士の交流が生まれたり、ＪＲ三原駅から社会体験も兼ねて兄弟だけで訪れる子どももいたりと、さまざまな出会いや体験の場となっています。

定期的な絵本のよみかたりのほか、手作りコンサートや人形劇、地域の小学校のグラウンドでの星空映画会など、多彩なイベントを開催しています。また、炭焼き、ガーデニング、アスレチック体験などを通して、自然の中で子どもたちを育んでいきたいと考えています。

正式名称は「ほんごう子ども館」。大田堯先生の「教育は地域でのつながりの中で進める」という理念や、吉田達也前館長の熱意を引き継ぎ、絵本を中心としたふれあいの場所として、これからも地域に根ざした活動をしていきたいと思います。エネルギーの源は子どもたちの笑顔です。

▲子どもたちは興味津々！
ゲームやおもちゃも楽しめます

元気なまちに！

まちを元気にしたい 大和に芽吹く新しい伝統

真っ暗な田園に幻想的な輝きを放ち浮かび上がるねぶた。大和町の秋祭り、亀山神社祭礼で献灯行列を先導するその雄姿は見る者の目を奪います。

大和町の下徳良ねぶた社中は平成17年に結成。地元の祭りも年々寂れ、元気がなくなっているまちをなんとかしたいと立ち上がった地元青年たちが、後に同社中の計画指導役となる松長昭武さんに相談をしたのがきっかけです。松長さんは過去の経験から、ねぶたを製作し、地元の祭りを盛り上げることを提案。メンバー16人で活動が始まりました。

ねぶた製作は今年で5年目。鉄骨と割竹で作った骨組みに布を貼り色づけされます。また、首と口元が機械で可動する仕組みになっており、動くねぶたは全国でも珍しいそうです。毎年テーマを決め製作に取りかかり、完成までに約8か月を要します。仕事を終えてからの作業は、毎月2回、深夜遅くまで行われます。夏休みなどには、地元の子どもたちも手伝います。ねぶたの足元にある雲の装飾には、参加した子どもたちの夢が書き込まれています。メンバーの山口博敏さんは「ねぶた製作に子どもたちが参加することで、後継者として私たちの思いを引き継いでくれれば」と期待を込めます。

松長さんは「ねぶた製作は大変ですが、皆さんに拍手や歓声を上げて喜んでもらうと、苦労が吹き飛びます。遠方からのお客さんや帰省した人の間で、ねぶたが話題になることもうれしいですね。回を重ねるごとに周囲からの期待も高まり、良い励みになっています」と笑顔で語ります。また「ねぶたを通して、地域が一団となってまちを元気にしようと取り組んでいます。地元だけでなく、市全体に祭りを広げたいという思いから、昨年は初めてやっさ祭りにも参加しました。機会があれば、本郷や久井の祭りにも参加したいです」と熱い思いを語ります。

▼昨年のねぶた「唐獅子」（全長7.5m、高さ4m、幅2m）と下徳良ねぶた社中の皆さん

イルミネーションでまちに輝きを

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

毎年12月から1月初旬にかけて、久井町の吉田スポーツ広場でペットボトルを利用したイルミネーションを行なっています。地域の皆さんの理解と協力で、活動は今年で10年目を迎えます。会員13人で毎年テーマを決め、約3万個のペットボトルで飾り付けをしています。

今回のテーマ「浦島太郎」を始め、これまでの「桃太郎」や「シンデレラ」など、親しみのあるキャラクターのオブジェは子どもたちにも喜ばれています。毎年11月になると、「点灯はいつからですか?」、「今年のテーマは?」などの問い合わせがあり、多くの人の期待を感じています。今では、地元はもちろん、福山や呉、愛媛からもイルミネーションを見に訪れてくれます。

きっかけは、ごみの分別によって発生するペットボトルの利用と、ホタルのすむ美しい吉田の川を守っていこうという思いです。イルミネーションのほかに、地域で行う川の清掃活動にも参加しています。

久井を離れている人が正月に帰省したとき、ふるさとでほっとしてもらいたいという思いもあって、毎年1月3日まで点灯しています。これからも引き続き開催して多くの人にイルミネーションを楽しんでもらい、まちの活性化につなげていきたいと思っています。

▲久井のまちを光で彩る冬ホタルの会の皆さん

▲会場への入口となる
ペットボトルのアーチ

平成21年 笑顔でつながる

思い出に残る成人式にしたい

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

1月12日に芸術文化センターポポロで成人式が行われます。今年のテーマは「感謝～伝えます。はたちの門出」です。

新成人のつどい実行委員会副委員長の西田桃子さんは「今年のテーマは20歳になったのをきっかけに、親や先生、友達など、今まで支えてくれた人に対して感謝する気持ちを持ってもらいたいと思い、実行委員会で決めました。私自身、今まで過ごしてきた佐木島のことが好きだし、島の人に感謝もしています。もちろん今まで育ててくれた両親にも感謝しています。今の楽しい大学生活が送れるのも両親のおかげだと思っています。成人式では、実行委員が協力して新成人のみんなに喜んでもらえるものにしたいと思います。一生に一度の成人式。参加してよかったという成人式にしたいです」と意欲をみせます。

新成人が新成人のために贈るパフォーマンスで演奏を披露する実行委員の小林広果さんは「今回成人式を迎える如水館高校吹奏楽部OB10人と現役の部員約50人で、思い切り演奏します。選曲は、会場が盛り上がり、高校3年間の思い出が詰まった2曲にしました。私が感謝する人は、如水館高校吹奏楽部の千鶴先生です。今自分が頑張れるのも、高校の時の頑張りがあったからだと思います。直接感謝の言葉を伝えるのは恥ずかしいので、心の中で感謝します」と笑顔で語りました。

そのほか、成人式の中では、実行委員3人により、20歳を迎えた今、伝えたいあの人に「感謝の言葉」を贈るセレモニーもあります。

▼成人式を盛り上げるぞー！
新成人のつどい実行委員会の皆さん